

高齢者てんかん

① 特徴

- ① 高齢者ではじめて発症するてんかんのほとんどがけいれんを伴わない焦点性てんかん（複雑部分発作）である。中でも側頭葉てんかんがほとんどを占める。
- ② 複雑部分発作は高齢者での発症が多いがすべての年令でみられ、てんかん発作の中で最も多いと言われる。
- ③ 意識を失うため自分では気づきにくいし、あとになって覚えていない。

② 側頭葉てんかんの発症パターン

（次のような①→②→③の順に症状が出て来て、数10秒から数分で終わる。）
この①→②→③が1日に何回も繰り返しある。

① 凝視（数秒）

それまで会話していたのが、急に無表情になり一点を見つめて、動きが止まる。
この時本人に意識は無い。これが数秒続いて（10秒以内）次の自動症に移る。



② 口部自動症（1～2分）

口をクチュクチュさせたり
手をモゾモゾさせる。



③ もうろう状態

キヨロキヨロとあたりを見回したり、ヨロヨロ、あたふたする。
ウロウロ歩き回ることもある。
声かけに対して生返事をするが、あとで覚えていない。

②モゾモゾ

①のときに前兆として、吐き気、におい、デジャビューや先行して起こることがある。つまり約10秒間ほど、以前見たことのあるような風景が浮かんで来ることがある。

②普通3～30分で終わるが、5分以上かったり、短時間であっても1日に何度も反復することもある。（重積発作）
30分以上続くと不可避な脳損傷を引き起こす危険あり。

前頭葉てんかんの場合は体全体をクネクネさせたり、自転車漕ぎのような激しい体の動きをすることがある。
持続時間は短いが、何度も出現する。